

今日の一品

ツツジ

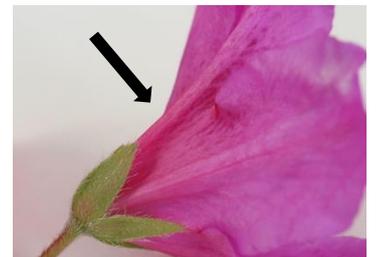


初回は、今が盛りに咲いている“ツツジ”の花をご紹介します。



上の写真を見ると、どのツツジにも、花弁の一部に赤や黄色の点々がついています。これは、花粉を運んでくれる昆虫に、その報酬として蜜のありかを教えている、蜜標（ネクターガイド）と呼ばれるものです。ツツジの花の蜜は小さな蝶や蜂の吻が届かないほど奥にあるため、ポリネーター（送粉者）として、大形の蝶や蜂を選んでいると考えられます。また、花を詳しく観察すると、蜜標のある花弁がちょっと変わった構造をしていることがわかります。

右の写真はオオムラサキの萼（がく）周辺を、花の裏側から撮ったものです。蜜標のある花弁は、他の花弁に比較して狭く、高く隆起している（つままれたようになっている）ことがわかります。この部分を内側から見ると・・・



左の写真のように、花弁が狭くくぼみ、そこに雄蕊が1本挟み込まれています。まるで花弁を内側に折って作った溝に蜜をため、1本の雄蕊を使ってそれが漏れないようにしているようです！ツツジの花が近くで手に入るようでしたら、確認してみましょう。



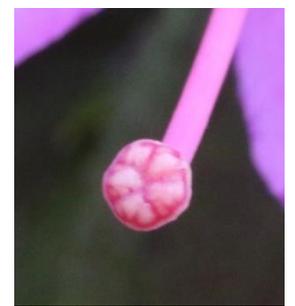
花弁と蜜標のある花弁に挟まれた雄蕊

ツツジの基本の数は5です。

花弁（合弁花）5枚、雄蕊は5×2の10本、
なんとよく見ると柱頭も5つに分かれています！



雄蕊と雌蕊の様子



柱頭